

# 戦後初。市民・野党の共闘が成果

## 参院選

### 一人区

#### 3年前 野党 ②勝

#### 野党共闘 ⑪勝

「安法法制＝戦争法廃止」憲法をないがしろにする安倍政治を許さない」と4野党と市民の共同でたたかれた参議院選挙では、32ある一人区すべてで4野党の統一候補が実現し、長野県や新潟県を始め11選挙区で野党が勝利しました。3年前に野党は2選挙区しか勝てなかったのですから、野党共闘の大きな成果です。

富山選挙区で立候補した道用えつ子氏は13万4212票、得票率27.4%で、3カ月余の取り組みで善戦健闘しました。4野党の比例代表の県内での得票数は17万7126票でしたが、その4分の3を道用えつ子氏で固めた形となりました。小矢部市内の道用えつ子氏の得票は38838票、22.2%でした。

### 日本共産党



#### たけだ良介氏が当選

#### 6議席へ前進

#### 改選3議席から

日本共産党は比例代表で3年前比86万票増の601万票を得て5議席獲得、東京選挙区での1議席と合わせ、改選議席3のところ6議席と倍加しました。北陸信越東海を活動地域としていたたけだ良介氏も初当選しました。

比例代表の富山県内の得票は2万7863票、得票率5.8%で、3年前の2万720票を1.34倍に増やしました。小矢部市内においては495票、得票率2.8%で、3年前の556票を下回りましたが、6年前の304票より前進しました。

**明るい小矢部**

No.192  
2016年8月号

発行  
日本共産党  
小矢部市委員会  
小矢部市七社 245  
砂田喜昭  
TEL 67-4322  
FAX 67-4842

日本共産党発行  
**赤旗**

日刊●月3497円  
日曜版●月823円

## 市民と野党の共闘は私の夢



### 道用悦子

野党のみなさまにも大変お世話になりました。市民と野党の共闘は私の夢でもありました。演説会や街宣、集会などで一緒にさせて頂きましたことは生涯の糧とさせていただきます。闘いはこれからです。これからも活動は止めません。

道用えつ子さんが7月18日、フェイスブックで「応援してくださいみなさまへ」と題した文書を発表されました。その一部を紹介します。

## 私有財産の保障・一党独裁制の否定など 共産党への誤解と偏見を解く 民進・共産両党の「確認書」 香川県

香川県で日本共産党の公認候補が野党と市民の統一候補になりました。その際、民進党県連代表と日本共産党県委員長が6月3日、次の確認書を交わしたことが話題となっています。

この内容は確認書でも明記しているとおり2004年に改定した日本共産党綱領の内容をふまえたものです(ゴシックは編集部)。

- ① 今日の日本社会に必要なのは社会主義的変革ではなく、資本主義の枠内での民主的改組であり、私有財産の保障が基本となる。
- ② 平和外交を重視するが、日米安保条約の廃棄や自衛隊の解消という共産党の政策は野党共闘に持ち込まない。
- ③ 天皇制を含めた現行憲法の全条項を守る。天皇制のあり方は、国民の総意によって決められるものである。
- ④ 一党独裁制を否定し、議会制民主主義及び選挙による政権交代制を堅持する。
- ⑤ 地方自治の確立、労働基本権の擁護、男女平等、信教の自由及び政教分離原則の徹底を図る。

政府は早速、改憲を語り始めました。政府の狙いは緊急事態条項。自然災害を言い訳に、この条項をまず通そうとするでしょう。ですが本当の目的は戦争です。騙されてはなりません。

へいわってどんなこと？  
「いやなことはいやだって、ひとりでもいけんが」

私の愛する絵本のこのフレーズを胸にこれからも私は活動を続けます。

### 総合会館、石動コミュニティセンター、勤労青少年ホームの整理統合に

総合会館(市民会館)、石動コミュニティセンター、勤労青少年ホームの3施設を整理統合して新しい施設をつくるための検討委員会が設置され、今後月1回のペースで会合を開き、11月にはとりまとめをする予定です。

検討委員会では既存3施設の利用者代表を含んでおり、新しい施設にどのような機能、内容を取るか、31日まで募集します。アンケート用紙は既存3施設の他、小矢部市のホームページにあります。

### 市民・利用者の意見を募集

市民や利用者からのアンケートを8月年度の利用開始をめざします。

「バーニー・サンダース自伝を読み始めた。彼はアメリカ大統領選挙で「民主的社会主义者」を名乗り、ヒラリー・クリントンと

最後まで指名争いを闘いぬぎ、約4割の代議員を獲得した▼彼の思いは「もともと裕福な国・アメリカの富のほとんどが、ほんの一握りの個人によって支配されている。下から1億3千万人のアメリカ人よりも多くの富をもっている1家族がある」というのは、どこかに根本的な間違いがあるのだ。これは変えなければならぬ」と▼彼が最初に選挙に出たのは1971年、30歳で、上院議員に挑戦。公開討論で聴衆は経済的公正の要求に「バーニーさん、あなたの言うことには全く賛成だ。でもね、第三政党に投票して、票を無駄にしたくはない」。わが日本共産党でも同じだなと、妙などころに感心した▼この半年後、今度は州知事選挙に出馬、得票率1%に「これはたいした経験だ。選挙期間中に提起した問題は、州の政策の変化に帰結したのだ。低所得家庭の子どものための歯科医療の改善だ。こどもも子どもも医療費無料化を前進させた富山県知事選挙とダブる▼彼は「こんな闘いを続けて、1981年からバーモント市長を4期8年(アメリカでは1期2年、下院議員も同じ)、上院議員は6年)、1991年から下院議員、2007年から上院議員に連続当選している▼14回の選挙戦を、日本よりもっと酷いマスコミ、財界からの攻撃を受けても、家庭のドアを叩き、庶民の声を聞いて打ち破ってきたのだから、すごい。参院選、都知事選挙をたたかって、この本からも学ぶものがある。